大乗寺
檀家だより
風蘭
NO１９
令和５年８月７日
発行責任者：総代代表：福本芳夫
編集担当者：広報担当寺役員

縁深き寺であるが故に

大軸「菊慈童」を賜りました

大乗寺住職　大僧正 長谷部 真 道

ご寄贈いただいた
菊慈童図掛軸

本堂である観音堂の再建は当山積年の願いでありました。昭和５８年度再建計画が具体化し享保年間に建造された旧堂の使用できる古材を生かしながら再建することになりました。

薬師堂の新築は昭和５３年の大法会の記念事業として神戸市柴田福男氏（文化庁建造物課退官）に設計管理を依頼し宇田建設の施工により、昭和６１年春に完成しました。

新堂はご承知の通り旧堂には無かった御拝を前に作り、後部に一間半拡げて位牌壇を設けました。中央台には天台大佛師、東京芸術大学教授西村公朝先生に弘法大師座像の木彫を大願し格天井９０面には円山応挙画系 第８世 駒池慶祥画伯に鳳凰と四季草花を、壇下の小襖８面には浄土の蓮華池の創作をお願いしました。慶祥師の処女作であり御母堂大村サト氏が絵具代をすべて支出され、献納された浄画であります。

それ以来深い厚誼を結ばせて頂き、その後円山派古画衣装絵１９着もご奉納頂いています。大変貴重なデザイン画で、（越）の印鑑が押されています。

今般は応挙生誕２９０年記念として「縁深き寺であるが故に」駒池慶祥氏・駒池真祥氏製作による大軸「菊慈童」を奉納賜り感激の極みであります。

応挙画と共に永く大事に保存させて頂きます。

ご奉納者：駒池慶祥氏から製作における思いと経過説明